



新年の御挨拶

静岡県中小企業団体中央会
会長 山内 致 雄

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延し、本年で3年目を迎えることとなりましたが、皆様に於かれましては、この厳しい環境の中にありましても、飛躍の年となるよう活力に満ち溢れていることと拝察申し上げます。

長期化するコロナ禍の影響により、中小企業・小規模事業者を取り巻く環境は大きく変化して参りました。今、この環境の変化が常態化し、ニューノーマルとして確立されたことにより、企業は大きな変革期を迎え、その対応を迫られております。

厳しい状況下ではありますが、このニューノーマル時代の到来をビジネスチャンスと捉え、新たな事業の可能性を見出す企業は少なくありません。

既存事業を見直し、新たな事業形態を再構築していくことは、決して容易なことではありませんが、企業間連携による協働の力をもって柔軟に対応することで、その挑戦を実現することが可能となります。

この未曾有の災害を乗り越えるため、今こそ中小企業の連携体である中小企業組合の力を存分に発揮する時であると考えます。

昨今ではカーボン・ニュートラルやサステイナブルな社会への対応など、社会の一員として取り組むべきとされる企業の社会的責任（CSR）やSDGsをはじめとした今日的課題も顕在化しており、近代の企業経営は社会的責任を果たす活動にも積極的に取り組んでいくことが求められております。加えてコロナ禍によるデジタル化の進展への対応など、企業単体では対応が困難な課題が多数存在しており、新たな視点から組合の役割を見つめ直す時期にあると言えます。

そのような中、本会では昨年11月に県大会を開催し、ニューノーマル時代に求められる連携のあり方を考察し、組合の新たな役割を考える上での3つの視点のほか、組合が取り組むべき3つの行動ポイント、そして組合を支援する中央会の6つ重点事項についてご提言させていただいたところであります。

現在、次年度に向けて提言させていただきました内容の具現化に向け準備を進めるとともに、組合組織によるデジタル化の促進や事業再構築への支援などに取り組んでおりますので、会員組合の皆様には本

会事業をさらにご活用いただければ幸甚です。

本年の干支は「壬寅」であります。「寅」という文字には、その成り立ちから「伸ばす、引っ張る」という意味が含まれており、中国の漢書では「寅」は草木が伸び始める状態とも解釈されています。十二支は元来植物が循環する様子を表しており、寅年は春が来て芽や根が成長する時期、草木が伸び始める状態だとされています。

我々中小企業がこの大きな時代の節目に於いて、様々な課題を解決し逆境に打ち勝つためには、成長を表す「寅」の文字の如く、様々な可能性に今一度目を向け、時代に即した成長の実現に努めていく必要があります。組合組織の更なる進化こそが、厳しい状況にある中小企業・小規模事業者の前進に繋がるという基本的考えのもと、本会はその成長を促す支援事業に全力で取り組んで参る所存でございます。

中央会役職員一同、会員組合並びに組合員企業の皆様が、この災禍を成長の糧として転禍為福を実現することで、大いなる飛躍の年を迎えられますよう業務に邁進していくことをお誓い申し上げます。

結びに、日本経済を覆う先行きの不透明感が払拭され、光が差し込むことにより、皆様にとりまして希望の芽が大きく育つ輝かしい1年となりますよう心よりご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和四年元旦

静岡県中小企業団体中央会
会長 山内致雄